

【連載特集】筆の里工房周辺の整備事業
～つながる つなげる～ (その4)

わずか76年後には、日本の人口が今の半数に減少すると見込まれるなか、“ふるさと熊野”を子や孫に残すために、私たちには今できることがあります。個性豊かな文化を活かした魅力的なまちづくりも、移住する場所、住み続ける場所として人々をまちに惹き付ける大切な取り組みの一つのはずです。

熊野町は筆産業とそれにより培われた文化芸術が息づくまちです。このソフトパワーを活かし、この地に住む人々がつながり、まちと文化を未来につなげるため、都市公園と観光交流拠点施設の建設を進めています。

今月号では、施設の建築設計をテーマに町民のみなさんに参加いただいたワークショップについて紹介します。

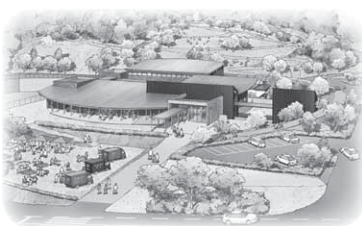
○ワークショップの開催

施設利用者となる町民のみなさんの意見を施設づくりに活かすとともに、公共施設の建築設計などに関わることで「モノづくり」の楽しさを体感してもらうため、参加者が自発的に参加して発言しあう体験型イベント(ワークショップ)を行いました。

○ワークショップでの意見の例(こんな使い方ができたらいいな)

- 空間：[勉強や談話などで使える場所] [写真スタジオ] [劇場] [物販・カフェ] [和室] [キッズスペース] [水場] [ドッグラン] [筆まつり会場]
- 事業：[託児付きアート教室] [自作品の制作発表会] [段ボール工作・木工] [音楽会] [むかし遊び] [絵本の読み聞かせ]
- 設備：[eスポーツ] [3Dプリンター] [無線LAN(Wi-Fi)] [遮光カーテン]

☎820-5608
☎820-5602



◀この連載特集の記事は町ホームページでご覧いただけます。



令和4年12月8日(木) 熊野高校生徒 25人
令和4年12月20日(火) 町商工会会員 15人
令和5年1月14日(土) 町民(公募) 12人



○意見を建築設計に活かした例

乳幼児を対象とした芸術活動、各種の発表会や音楽会など多目的に使えるホールを備え、2階にはワークスペースなども設けます。

私には新しくつくられる施設で実現できればと思うことがたくさんあります。フリーマーケット、思い出のある子供服を手放せるきっかけづくり、アクセサリなどモノづくりをする人たちの交流の場などです。イベントが多い土日には保育サービスは使えません。育児中にはなかなか出かけられないのが残念です。子育て家庭に配慮したイベント企画もしてみたいですね。オープンがとても待ち遠しいです。

熊野高校のアートディレクションコースで、学校や地域を元気にするための実践探究型の学習をしています。

これからできる施設は熊野町の新たな魅力を創る場所になると思うので、本当に楽しみです。

人それぞれに思い描く「芸術」の概念は異なると思いますが、自分の気持ちを形で表現することができるのは芸術の力だと考えています。文化芸術の大切さを伝えるには、実際に体験してもらうことが一番だと思います。



世羅楓佳さん (中溝地区在住)

参加者からの感想・エール

詳細は町ホームページでご覧いただけます



平成30年7月豪雨の際の避難経験などがきっかけで、大学で地域創生を専攻しました。

表現活動にはアニメキャラクターなどに扮する「コスプレ」も含まれます。独特の世界観がありますが、観光振興や地域活性化などにも貢献します。

新施設では、表現活動の一環として、衣装やコスプレグッズなどの制作を含めたイベントの実施も考えられるでしょう。こうしたサブカルチャーに関するイベント企画に携わってみたいです。



川岡誠翔さん (川角地区在住)

10月号では、建設用地とその周辺での土砂災害などへの対策の現状と今後の計画についての情報をお届けします。

広報担当者がみてきいてかんじて
new 熊野

☎820-5634

筆の里工房30周年企画・学芸員座談会！

筆の里工房は9月で開館30周年！そんな筆の里工房の学芸員さんたちの座談会の様子を大公開！

過去イチ〇〇だった企画展!?

吉田：この中じゃ、松本さんが1番経験しとる数が多いよね。

松本：楽しかったのか……。なんだろうねえ。

吉田：やってしまったら全部楽しかったよね。

松本：そうねえ、でも1番記憶に残っとるのはやっぱり『陽明文庫・国宝展(H22)』かな。熊野に初めて国宝が来たのがね。国宝を扱うにあたって、この施設は安全とか。とにかくやるのがいっぱいだった。

黒松：そんなことがあったんですね……。

松本：あとはね、あのとき初めて町内の子どもたち全員をここに招待したんよね。町長が「国宝は見とかにゃいけん」って言われてね。そこから子どもたちへの鑑賞教育が始まってね。

松村：今も続いとるのはすごいことですよ。



松本さん

やってみたい企画！

吉田：もう長いこと“絵画”の展示会はやってないよねえ。水彩とかはたまにやってるけど。



吉田さん

松村：『見返り美人図(菱川師宣)』とか。名品を連れてこられたらいいですよ。

吉田：切手になってるぐらいのね。それこそ「この切手の原画！」展とかやってみたいね。

郡司：あとは、教科書にある作品だったら、みんな知っとる美術の入り口みたいなものだから、その現物を見せてあげたい！

山本：それなら町民のみなさんも楽しめそうだよ。

黒松：子どもたちも教科書片手に回ったら、より楽しそうですね！



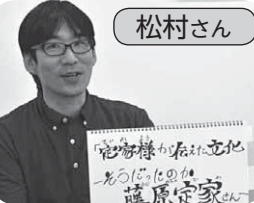
山本さん

30周年記念展作品紹介

本誌16ページでは、9月14日(土)から開催する「定家様が伝えた文化ーそうだったのか藤原定家さんー」で展示される作品を紹介しています。ぜひご覧ください。※本座談会は、7月26日(金)に筆の里工房で収録し、政策企画課が編集しています。

特別展の見どころは、『食べる定家様!』?

松村：“難しい藤原定家展”じゃなくて、“子どもたちもわかりやすく・楽しく学べる”っていうのをテーマに今絶賛開催に向けて準備していますね。金太郎飴とか……。



松村さん

山本：身近なモノに定家様を！ってことだね。

郡司：定家様の文字が入っているんですよ！

吉田：そうそう“食べる定家様！”ってね。来てくれた子どもたちにプレゼントしようと思ってる。

今年で30年、10年後はどうなっている？

黒松：言っても10年しか経たないわけだから、そんなにぐわーって変わることはないと思う。でも、今の状態よりも毎年ちょっとずつちょっとずつでもいいから、プラスにね。



黒松さん

郡司：さらに言えば、そこからまた10年、20年経った時に「筆といえば？」で、熊野町ってだけじゃなくて「筆の里工房があるよね」って言ってもらえるようになったらいいね。

“筆の里工房”の魅力!!

松村：小さい子どもからお年寄りまで楽しめる！

郡司：“筆”ってテーマがはっきりしてますからね！

山本：地場産業に支えられているってところでは、他の美術館や博物館にはない魅力よね。



郡司さん

吉田：筆作り始まって200年が経とうとしてるからね。

黒松：なんかイベントとかしたいですね！

松本：でも、町内に住んでいる人でも、工房の中で筆を売ってることを知らなかったって人もいらっしやってみたくないんよね。

全員：町民のみなさん、ぜひ遊びに来てください♪。



ふでりんも筆の里工房に遊びに行きたいリンク

◀これまでの紹介作品はこちらからご覧いただけます

